

臨床研修カリキュラム

養成コース [放射線腫瘍科]

全体目標：がんの標準療法を理解するとともに、放射線治療の基本原則と治療適応について幅広く学び、放射線腫瘍学的知識にもとづいた基本的な診療ができること。

個別目標：

	1 カ月、1.5 カ月	2 ヶ月以上（再ローテーションを含む） 左記に加えて下記の事項ができる
1	放射線治療に必要な放射線生物・物理学の基本事項を習得する。 X線と電子線の線量分布、粒子線の線量分布など。	放射線治療に必要な放射線生物・物理学の基本事項を習得する。 分割照射の原理、LETとRBE、放射線感受性、治療可能比など。
2	患者ごとに治療方針を明確に述べることができる（根治的照射・姑息的照射・対症的照射）。	患者ごとに放射線治療の内容とそのコンセプトについて明確に述べるができる。
3	正常組織の耐容線量を理解し、起こりうる急性有害反応、遅発性有害反応を予測できる。	急性期有害事象への対応を習得し、基本的なもの（皮膚炎、粘膜炎、腸炎等）については支持的療法を実施できる。
4	GTV、CTV、ITV、PTVなど放射線治療における標的体積の定義を理解する。	左記の定義に応じた各標的体積の描出を行える。
5	放射線治療の適応を理解するとともに以下の基本的疾患について指導医とともにエックス線治療計画を立案する。 乳房温存療法の接線照射法、子宮頸癌の全骨盤照射法、喉頭癌の照射法など。	左記以外の疾患へのエックス線治療について、治療計画へも参加し、基本的な計画立案を担う。
6	上級医・指導医の指導監督のもとで担当患者へ病状説明ができる。	上級医・指導医の指導監督のもとで担当患者へ放射線治療についての説明ができる。
7	緊急照射の適応と対応方法について理解する。	
8	がん診療に必要な超音波検査、単純・造影X線検査、X線CT検査、MRI検査、核医学検査などの原理、適応、解釈を習得する。	左記の検査から、放射線治療の計画立案に必要なモダリティを選択して情報を得ることができる。
9	化学放射線療法の原理と、よく使用されるプロトコルを理解する。	化学放射線療法を、プロトコルに従って、副作用などを理解したうえで実施できる。
10	緩和ケアに関して理解し、適切なコンサルテーションを行うことができる。	緩和ケアに関して理解し、基本的な症状コントロールが実施できる。
11	終末期医療と患者の心のケア法の修練を行う。	

方略：

病棟で5人程度の患者を受け持ち、上級医・指導医の指導のもと受け持ち医として主体的に診療する。

- ・ 教授回診…週1回（木曜日）。病棟受け持ち患者に関して、癌のstaging、治療目的、治療法に関し詳細なプレゼンテーションを行う。

- ・ 朝回診…（月、火、水、金）。病棟受け持ち患者に関してプレゼンテーションを行う。

外来では上級医の指導のもと、病状の把握、インフォームドコンセント、治療計画の立案、治療中診察、副作用のコ

ントロールなどの基本的診療を行う。

- ・放射線腫瘍科カンファレンスおよび陽子線治療カンファレンス（毎朝8:15—）

外来および入院患者の初診の患者に関して、ケースプレゼンテーションを行う。治療計画については上級医の指導のもと詳細にプレゼンテーションする。

- ・合同カンファレンス（耳鼻科、消化器内科、脳外科、婦人科、小児科、呼吸器科など）…毎週一月1回。

合同カンファレンスに参加し、受け持ち患者のプレゼンテーションを行う。

- ・放射線腫瘍勉強会…週1回（木曜日）。教授から与えられたテーマについて自習し発表する。（発表はおおむねローテーション中に1回）

- ・陽子線センター勉強会（月1回，木曜日）。討論に参加する。

- ・その他、地域のがん関連の研究会に積極的に参加する。

評価：

- ・EPOCによる評価を行う。

・修了時に評価表（研修医の経験内容等に関する自己評価および放射線腫瘍科の指導体制等に関する評価を記載）を提出。評価表は放射線腫瘍科のスタッフ・シニア以上のレジデント、全てが共有する。

- ・ローテーション中に養成コース長による面接評価を行う。